2 社会教育の充実

1 学習活動の充実

〈目標〉

多様化・高度化する学習ニーズに応えるため、あらゆる年齢層に応じた様々な学習機会を提供する。また、社会教育関係団体等の自主的な活動を支援するとともに指導者を育成する。

〈取り組みの方向〉

社会教育関係団体等の自主的な活動の支援、指導体制のさらなる充実、関係機関や団体との連携・ネットワーク化を進め、少子高齢化等に対応した学習機会を提供する。

〈平成20年度の主な取り組み〉

(1)自主的活動の促進

- ・社会教育関係団体や市民グループが行う自主的な活動などを支援する。

(2)指導体制の充実

- ・社会教育主事講習や社会教育関係研修会等に積極的に参加し、指導体制の充実を図る。
- ・各種指導者養成講座等を実施し、社会教育活動における指導者を養成する。

(3)関係機関・団体との連携

- ・北河内6市や大阪市等とも相互貸借を推進し、図書館資料の効率的な運用を図る。
- ・社会教育関係団体や地域住民と連携し、市民と協働して子どもの安全確保や青少年健全育成、学習活動等を推進する。

(4)学習機会の充実

- ・多様化する市民の学習ニーズに応えるため、幼児から高齢者まで、あらゆる年齢層を対象とした各種学級や講座を開催する。

〈平成 20 年度の取組実績〉

(1)自主的活動の促進

- ①社会教育関係団体や市民グループが実行委員会を組織して開催する「市民文化祭」「公民館まつり」「フェットエスポアール」「元気 夢 まつり」等、日頃の活動成果や交流の場を提供することにより、市民の自主的な活動を支援した。

【イベント参加状況】

	H20 年度	H19 年度	H18 年度
市民文化祭	11,826 人	10,592 人	11,682 人
公民館まつり	7,322 人	7,420 人	6,350 人
フェットエスポアール	8,943 人	9,823 人	9,700 人
元気 夢 まつり	33,500 人	34,000 人	33,000 人

(2)指導体制の充実

- ①市民の社会教育活動を支援するため、社会教育主事資格取得のための主事講習受講や各種研修会への参加、また、社会教育関係団体の指導者を対象とした大阪府や国、上部組織が開催する指導者研修会、各種研究大会へ参加していただくなど、指導者の育成・資質向上を図った。
- ②青少年の指導者やスポーツ指導者を養成するため、子ども会指導者セミナー・スポーツインストラクター養成講座を実施し、指導者の育成に努めた。

【指導者養成講座等参加状況】

	H20 年度	H19 年度	H18 年度
子ども会指導者セミナー	315 人	548 人	614 人
スポーツインストラクター養成講習会	42 人	36 人	32 人

(3)関係機関・団体との連携

①子どもの安全や青少年の健全育成のため、学校・家庭・地域社会が連携した地域教育協議会⁽¹⁵⁾事業や放課後子ども教室⁽¹⁶⁾推進事業、また新たにまなび舎事業・まなび舎キッズ⁽¹⁷⁾、学校支援地域本部⁽¹⁸⁾事業を、市立校園 PTA をはじめ社会教育関係団体等と連携し、実施した。

【関係機関・団体との連携事業参加状況】（延べ参加者数）

	H20 年度	H19 年度	H18 年度
地域教育協議会（12 中学校区）	33,711 人	30,351 人	37,532 人

②北河内 6 市や大阪市等と連携して進めている図書館の広域的な相互貸借制度は、各市の図書館利用者にも制度が定着しつつあり、各市の利用者及び貸出し冊数も増加している。

【平成 20 年度広域利用貸出延べ人数及び貸出冊数】

	市 民		他 市 の 人	
	他市の図書館 を利用した人数	他市の図書館 から借りた冊数	本市の図書館 を利用した人数	本市の図書館 から借りた冊数
守口市	1,152 人	2,227 冊	915 人	4,587 冊
枚方市	6,508 人	28,932 冊	1,434 人	7,933 冊
大東市	836 人	2,171 冊	155 人	1,135 冊
門真市	1,560 人	5,807 冊	942 人	7,867 冊
四條畷市	1,926 人	9,053 冊	338 人	2,787 冊
交野市	96 人	568 冊	763 人	6,323 冊
その他	—	—	26 人	53 冊
H20 年度	12,078 人	48,758 冊	4,573 人	30,685 冊
H19 年度	10,804 人	44,143 冊	4,808 人	29,976 冊
H18 年度	10,534 人	41,440 冊	※未計測	29,073 冊

※平成 18 年度までは図書館システム上の制約により貸出のべ人数の計数不可。

(4)学習機会の充実

社会教育施設では、市民の学習ニーズの把握に努め、社会の変化や今日的な課題を考慮した、あらゆる年齢層の市民が参加できる講座・教室や行事を実施した。

【社会教育施設の使用者数（中央図書館は利用カード登録者数）】

	H20 年度	H19 年度	H18 年度
中央公民館	176,735 人	175,612 人	175,340 人
エスポール	161,044 人	159,746 人	164,366 人
教育センター	38,330 人	36,011 人	37,665 人
中央図書館	89,287 人	83,428 人	77,591 人

〈点検・評価〉

- ・ **学習機会の充実**については、社会教育関連施設ではますます多様化・高度化する市民の学習ニーズに応えるため、あらゆる年齢層を対象とした学習機会の提供に努め、使用者数が増加した。
- ・ **指導体制の充実**については、スポーツインストラクター養成講座を実施することにより、社会体育指導者を育成し、資質の向上を図った。
- ・ **関係機関・団体との連携**については、関係団体や学校と連携した「放課後子ども教室」において、9月から新たにまなび舎事業・まなび舎キッズの開始により、開催回数・参加者とも増加し、事業の充実が図れた。また、12月から開始した学校支援地域本部事業については、多くの学校支援ボランティアの協力を得ることにより、地域教育力⁽¹⁹⁾の向上が図れた。
- ・ 北河内6市や大阪市等との図書館で連携して進めている広域利用制度を市民に周知することにより、利用者・貸出冊数とも増加した。

2 公民館の充実

〈目標〉

あらゆる年齢層を対象に、各種講座や教室を開設するとともに、人と人とのつながりや地域を活性化するための拠点としての機能を高める。

〈取り組みの方向〉

市民ニーズを的確に把握しながら、あらゆる年齢層の市民の学習や交流の拠点として、効果的・効率的な施設の管理運営を行う。

〈平成 20 年度の主な取り組み〉

(1)中央公民館の充実

- ・中央公民館施設の改善により、施設機能の充実を図る。
- ・新規講座企画の市民募集など、市民ニーズに的確に応えられる講座を企画する。

(2)中央公民館の効果的・効率的な管理運営

- ・中央公民館についてより効果的・効率的に事業を推進するため、指定管理者制度⁽²⁰⁾を導入する。

〈平成 20 年度の取組実績〉

(1)中央公民館の充実

- ①主催講座の数を前年度と比較して4講座増やすとともに、市民から募集した企画に基づく講座を8講座（親子工作教室、親子ガラスアート教室ほか）実施するなど、市民ニーズを踏まえた中で、主催講座の内容の充実に努めた。
- ②公民館施設の点検・整備に努めるとともに、平成 18 年度から登録していない団体についても施設が使用できるものとし、施設使用の効率化、使用者の増加に努めている。

【中央公民館延べ使用者数】

H20 年度	H19 年度	H18 年度
176,735 人	175,612 人	175,340 人

※主催講座、公民館まつり等を含む全ての使用者数

【中央公民館の使用団体数】

項 目	H20 年度	H19 年度	H18 年度
登 録 団 体 数	134団体	137団体	145 団体
登録していない団体数	63団体	60団体	22 団体
計	197団体	197団体	167 団体

※登録団体数は、中央公民館の主催講座から発足した団体（育成サークル）とその他の中央公民館を継続的に使用している登録団体の合計数。

※H17 年度までは中央公民館に登録している団体のみ使用を認めていたが、H18 年度からは登録していない団体についても使用を認めている。

【中央公民館主催講座延べ参加者数】

	H20 年度	H19 年度	H18 年度
延 べ 参 加 者 数	11,055 人	11,502 人	11,478 人
講 座 数	43講座	39講座	34講座

※主催講座の内、市民大学、ファミリー映画会を除く。

【公民館まつり延べ参加者数】

	H20 年度	H19 年度	H18 年度
公民館まつり	7,322 人	7,420 人	6,350 人

(2)中央公民館の効果的・効率的な管理運営

- ①受益者負担の適正化を図るため、平成 20 年 7 月 1 日以降の申込分より施設使用料金を徴収した。
- ②施設のより効果的・効率的な事業推進のため、指定管理者制度の導入について調査・研究を行った。（導入予定：平成 22 年 4 月）

〈点検・評価〉

- ・ **中央公民館の充実**については、主催講座において延べ参加者数は毎年同程度の数値で推移しているが、講座内容に関しては、様々な市民が参加できるように市民から募集した企画講座を実施したり、講座数を増やすなど、内容の充実・多様化を図った。
- ・ **中央公民館の効果的・効率的な管理運営**については、平成20年7月1日の施設使用料金の有料化以降においても、施設使用者数は概ねそれ以前と同程度の総数で推移している。
- ・ 高齢化社会を迎える中、市民の生涯学習に対する意欲・関心は年々高まっている。このような状況を踏まえ、引き続き市民の自主的活動の支援や学習機会の充実に努めるとともに、より効果的・効率的に事業を推進できるよう、指定管理者制度の導入も含めて事業内容を精査していく必要がある。

3 図書館の充実

〈目標〉

市民の生涯学習の拠点、市民への情報発信の場として、図書館資料・情報の収集、保存、提供を行うとともに、すべての人が快適に利用できるよう読書環境を整備する。

〈取り組みの方向〉

市民の読書ニーズに応え、常に新鮮で豊富な資料や情報を迅速に提供するなどサービスの一層の向上と図書館業務の効率化を進める。

〈平成 20 年度の主な取り組み〉

(1)図書館の充実

- ・多様化する市民の資料ニーズに応えるため、図書館資料・情報の収集、保存機能の充実を図る。
- ・障害者、高齢者へのサービスや、外国人などへの多文化サービスを積極的に提供する。
- ・地域の情報発信の拠点としての機能を高めるため、ICT ネットワーク促進事業を推進する。また、蔵書管理及び業務の効率化を図るため、IC タグの導入を進める。
- ・図書館業務の効率化を図るため、中央図書館の運營業務の一部を委託する。

(2)子どもの読書活動の推進

- ・『子ども読書活動推進計画』に基づき、保育所・幼稚園・小中学校や地域・ボランティア等と連携し、子どもの読書環境の整備を推進する。
- ・子どもの読書活動をより一層推進するため、東図書館に子ども図書室を設置する。

(3)関係機関・団体との連携（再掲）

- ・北河内6市や大阪市等とも相互貸借を推進し、図書館資料の効率的な運用を図る。

〈平成20年度の取組実績〉

(1)図書館の充実

- ①図書館に対する市民ニーズの多種多様化に応えるため、毎年多面的かつ、フレッシュな図書の収集に努めている。

【蔵書冊数】

	蔵書累計	受 入 数		
		購入数	寄贈数	合計
H20年度	413,968冊	32,313冊	1,926冊	34,238冊
H19年度	399,861冊	31,085冊	1,549冊	32,634冊
H18年度	385,413冊	29,918冊	1,221冊	31,139冊

※点字図書・AVを含む

- ②社会や生活に関する課題・トレンドを分析し、求められる本を揃えた。また、ビジネス支援コーナーを平成20年度に設置した。

【貸出冊数】

	総計	中央図書館	東図書館	分 室	移動図書館
H20年度	1,132,961冊	738,910冊	221,963冊	143,989冊	28,099冊
H19年度	1,077,052冊	723,477冊	206,480冊	117,475冊	29,620冊
H18年度	1,069,946冊	724,236冊	204,760冊	110,193冊	30,757冊

※分室は西北・南・東北・西南の合計冊数

- ③市民ニーズに合った資料（本）を収集するとともに、利用者の利便性を向上させるため、インターネット予約を実施している。
 ICTネットワーク事業では、図書館ホームページ開設（H11年度）以来、館内に市民用パソコン（インターネット接続）設置、ホームページからの予約受付、予約可能な館内蔵書検索機の設置等を行っている。

【予約受付冊数】

	総計	中央図書館	東図書館	分室	移動図書館
H20年度	158,123冊	80,555冊	45,641冊	31,090冊	837冊
H19年度	126,559冊	65,539冊	37,070冊	23,371冊	579冊
H18年度	112,996冊	58,044冊	35,096冊	19,715冊	141冊

※分室は西北・南・東北・西南の合計冊数

- ④視覚障害者を主な対象とした点字・録音図書の貸出を進めた。また、在住外国人向け資料として韓国・朝鮮語、中国語、英語の原書の提供を行っている。なお、視覚障害者へのテープ貸出で最も利用が多かった雑誌『ダ・カーポ』が休刊となったため、年間約2,600巻の貸出が減少した。また、老人福祉法人施設へ移動図書館車を定期派遣し図書館へ来ることが難しい高齢者への施策も実施した。

【点字・録音図書貸出数】

	点字図書		テープ図書		デージー図書 ⁽²¹⁾	
	タイトル	巻数	タイトル	巻数	タイトル	巻数
H20年度	15	20	359	2,608	46	46
H19年度	14	23	751	5,184	14	14
H18年度	3	3	704	4,705	54	54

(2)子どもの読書活動の推進

- ①「寝屋川市子ども読書活動推進計画」(H18年3月制定)に基づいて、子どもの読書環境を一層整備するため、学校・幼稚園・保育所等への団体貸出用図書を購入し、平成18年度より団体貸出に取り組んでいる。

【団体貸出の貸出冊数】

	貸出冊数	家庭文庫 の団体数	地域文庫 の団体数	その他 の団体数
H20年度	45,103冊	2団体	6団体	53団体
H19年度	25,639冊	2団体	6団体	50団体
H18年度	11,247冊	2団体	7団体	52団体

※その他の団体数には、下表の学校園・保育所団体数も含む。

【学校園・保育所団体登録数】

	中学校	小学校	幼稚園・保育所
H20年度	6校	21校	20園所
H19年度	2校	18校	10園所
H18年度	1校	3校	3園所

- ②東図書館については、平成20年度も引き続きNPO法人・図書館活用をすすめる会に窓口業務を委託し効率化を図っている。また、子どもの読書活動推進のため、館内に新たに子ども図書室を開設し、NPO・法人「子どもと本をつなぐ会—おおきくなあれ—」に委託した。
- ③歴史情報の収集・保管・提供事業としては、市史編纂事業中に収集した各種史料の整理作業、史料データベース構築のための目録データの統合処理、市民からの寄贈古文書の目録作成等を行った。また、歴史情報の提供としては、出前講座への講師派遣など各種講演活動を行なった。

〈点検・評価〉

- ・ **図書館の充実**については、各種図書館事業の取組みにより貸出利用が増加した。
 予約本の受付が増加した（前年比25%増）
 分室の利用が増加した（前年比23%増）
 個人貸出冊数が増加した（過去最大 1,132,961冊）
 （そのうち児童書は、333,022冊）
- ・ 高齢者施策については、施設巡回・行事・講座等での対応が今後必要である。
- ・ **子どもの読書活動の推進**については、子ども読書活動推進事業の一環として、東図書館のスペースを拡張し、子ども図書室をオープンした（11月1日）。これにより、同館での児童書貸出利用が前年比57%増加し、また子ども図書室設置による相乗効果で、一般書の貸出利用も前年比10%増加した。

- ・子ども読書活動推進事業の一環として、市内小・中学校、幼稚園・保育所等へ働きかけた結果、団体貸出が前年比76%増加した。なお、中学校の団体貸出登録率の伸びは小学校に比べて低いため、今後も一層の取り組みが必要である。